

AD-AS 分析の考え方

AD 曲線, AS 曲線を用いて, 物価水準と GDP の決定を同時に説明することができる。
今学期最初の課題は, この AD 曲線, AS 曲線の意味をよく理解することである。

I. AD-AS 分析 —— 均衡分析

A. 需要側と供給側

1. 需要側 AD 曲線 (Aggregate Demand)

a. 均衡の GDP: 総生産と総需要(「計画された」総支出額)を一致させる GDP

(1) 総生産: 国内総生産

(2) 総需要: 最終消費 + 国内投資 + 純輸出(輸出 - 輸入)

b. 物価水準と均衡の GDP とのあいだの右下がりの関係

2. 供給側 AS 曲線 (Aggregate Supply)

a. 物価水準と雇用のあいだの右上がりの関係

b. 物価水準と GDP とのあいだの右上がりの関係

B. AD-AS の均衡

1. 物価水準と GDP の同時決定

2. 需要管理政策: 財政政策, 金融政策による AD 曲線の操作

II. その他の均衡分析 —— AD-AS 分析との対比

A. 個別市場(例えばコメ, 原油など)の需要供給分析

1. 需要法則と供給法則

a. 需要法則

(1) 価格が低いほど需要量は大きい。

(2) 右下がりの需要曲線

b. 供給法則

(1) 価格が高いほど供給量は大きい。

(2) 右上がりの供給曲線

2. 需要量と供給量の一致 → 価格と数量の同時決定

B. GDP 決定の IS-LM 分析

1. IS 曲線と LM 曲線

a. IS 曲線: GDP と総需要額の均衡

(1) 利子率が低いほど均衡の GDP は大きい。

(2) 右下がりの IS 曲線

b. LM 曲線: 貨幣流通量と貨幣需要量の均衡

(1) 貨幣流通量が一定であれば, GDP が大きいほど利子率が高い。

(2) 右上がりの LM 曲線

2. IS-LM の均衡

a. GDP と利子率の同時決定

b. ケインズ理論に基づくマクロ経済政策

(1) 財政政策: IS 曲線の操作

(2) 金融政策: LM 曲線の操作

参考文献

教科書，第 6 章，181-184 ページ．